

令和3年度 学校関係者評価報告書

大阪市立菅原小学校 学校協議会

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

1 総括についての評価

「運営に関する計画」の自己評価結果の総括について検証した。C評価もあるものの全体として概ね目標どおり達成できたと考える。この総括をもとに来年度の取組内容や指標を検討し、いっそう創意工夫ある教育活動を展開されることを期待し、自己評価を承認した。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現
施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現 評価：C

全市共通目標(小・中学校)

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

自己評価について承認する。新たに不登校となる児童の割合を前年度より減少させることができなかつたため、C評価となっているが、コロ禍の状況下であり、また、いじめの解消や暴力行為が達成していることから、取組内容は十分評価できる。今後も、いじめや暴力行為を許さない学校づくりに努めていただきたい。

年度目標：子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現
施策2 道徳性・社会性の育成 評価：C

全市共通目標(小・中学校)

- 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を80%以上にする。

学校の年度目標

- 校内アンケートにおけるあいさつに関する項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 校内アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を80%以上にする。

自己評価について承認する。あいさつの項目で目標を達成していることは大変ありがたい。きまりの項目で目標を達成できなかったことは非常に残念である。規律正しい学校生活が送れるよう、指導を進めていただきたい。

年度目標：子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現
施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援 評価：B

学校の年度目標

- 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を90%以上で維持する。

自己評価について承認する。情報公開については、いつも努力されている。コロナ禍の影響で更新回数は前年度より少なかったが、閲覧数の伸びから、ニーズに合った内容の充実が図られていることがわかる。

年度目標：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組 評価：C

全市共通目標(小・中学校)

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。

学校の年度目標

- 校内アンケートにおける「進んで読書をしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における「国語科の授業内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。

小学校学力経年調査の結果、目標値に達しない学年・教科があったためC評価となつたが、取組内容としては十分であった。読書の項目が目標を大きく上回ったことは、特筆すべき成果である。

年度目標：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

施策7 健康や体力を保持増進する力の育成 評価：A

全市共通目標(小・中学校)

- 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルランと長座体前屈の平均の記録を、前年度より2ポイント向上させる。

学校の年度目標

- 校内アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上で維持する。

自己評価について承認する。全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果が著しい伸びを示したことは特筆すべき成果である。手洗い・うがいについては、コロナ禍もあり、よく達成されている。

3 今後の学校運営についての意見

学校は子どもたちのためにさまざまな取組をされ、成果を上げていただいている。

コロナ禍への不安により登校しづらくなっている児童の、学習面のサポートと心理面のケアをお願いしたい。

次年度からの新しい教育振興基本計画のもと、学校の目標や取組内容・指標を検討し、いっそう創意工夫ある教育活動を展開していただきたい。